

蓮沼川における兩岸景観差異についての考察

樂雅蓉（地球科学専攻）

一、研究目的

集合住宅地、昔の集落地、開発建設地三種類の地域の景観調査によって、それぞれの特徴と互いの差異を明らかにすることが、本研究の目的である。

二、調査地域

つくば市春日3丁目と下平塚、学園の森辺りに挟んだ蓮沼川流域の兩岸を研究地域とする。蓮沼川の東側が春日3丁目、西側が下平塚と学園の森地域である。

東側の春日3丁目は集合住宅が林立していて、建物が相対的に新しい。それに対して、西側の下平塚地域は、昔の集落が存在している。相対的に古い地域である。学園の森辺り古い集落が存在しないが、今開発中の非常に新しい地域である。

三、研究方法

GPSを利用して、街路灯や自動販売機の位置情報を入手する。そのデータをArcGISに取り込み、分布図を作成する。

街路灯について、3m、5m、10m、15mの多重バッファを作成することによって、照明範囲を把握する。

さらに、土地利用形態やそのほか基礎施設を総合的に考察し、集合住宅地、昔の集落地、開発建設地三種類の景観の違いを明らかにする。

四、考察

集合住宅地については、街路灯が多くないが、アパートなどの照明が多く存在している。公園が三ヶ所、コンビニ店舗、自販機も点在している。

昔の集落地については、街路灯は非常に少ないし、老朽化している。照明範囲も限られている。自販機もコンビニもほとんど見られない。

開発建設地については、大通りに街路灯が整備されている、照明範囲も広いが、ほとんど一本道しかない。コンビニはないが、大型のスーパーは存在する。公園が二ヶ所ある。自販機は大型スーパーに併設して設置されている。

